

奈良県立大学創立50周年記念号によせて

学長 神木 哲男

本学は、平成15年4月に創立50周年を迎えた。本学は、戦禍の傷痕がまだ癒えない昭和28年、主に勤労青年のために高等教育の場を提供する目的で設立された奈良県立短期大学に、その起点をもっている。以来、商経学科2年制夜間大学として産業経済界をはじめ各界に有為の人材を送り出してきた。昭和48年度からは修業年限を3年に延長し、教育内容の質・量両面にわたる改革が実施され、社会のより高度な教育の要請に応えるべく努めてきた。

高度成長を背景に社会における教育の高度化が推し進められ、本学においても4年制大学への移行が日程に上り、昭和63年4月、大学設置基本構想が策定され、平成2年4月、商学部の夜間4年制大学、奈良県立商科大学が開設されるに至った。平成8年4月には同学部に商学コースと国際観光経営コースが設けられ、観光立県・奈良にふさわしい人材養成をめざし、一層の研究・教育の充実が図られた。

21世紀を迎えるに当たって折しも地域分権の推進が叫ばれるなか、新しい大学像が模索され、これからの地域社会を創造するために必要な人材の養成と大学の地域貢献を柱とする基本構想のもと、商学部の改組・転換が図られ、平成13年4月、地域経済学科と観光経営学科の2学科からなる全国唯一の「地域創造学部」が設置され、大学名も奈良県立大学に改称されたのである。

地域創造とは、「社会・経済・文化・歴史等に関して一つのまとまりとしての意味をもった地域を活性化し、そこに住む人々が豊かな生活を享受することができる地域社会を築くこと」であり、そのための研究・教育の場を提供するということを基本理念に、50年にわたる歴史と伝統を継承しつつ、本学における新しい知の創造（研究）・知の伝達（教育）・知の活用（地域貢献）を一層活発にし、地域社会における知の拠点としての役割を果たすべく、教職員一同決意を新たにしている。

今ほど大学の真価が問われている時代はない。21世紀に大学が真にその役割を果たし、社会にその存在を主張するためには、社会の変化と要請に対応してみずからを变革するためのたゆまぬ努力が要求される。本学もその例外ではない。地域に根ざした真の知の拠点としての役割を果たすためには、教職員の不断の研鑽と努力が必要である。来るべき50年に向けての第一歩を踏み出すにあたり、このことを銘記しておきたい。